

# 夢と希望に向けて チャレンジ!



徳島大学長  
青野 敏博  
あおの としひろ

春です



## 徳島大学へようこそ

新入生の諸君、入学おめでとうございます。晴れて徳島大学生となられ、新しい学生生活への期待も大きく膨らんでいることでしょう。御家族の皆様にもお子様の巣立ちに心からお慶びを申し上げます。私達教職員一同揃って新入生の皆様を歓迎致します。これからの4年間ないし6年間の徳島大学での学生生活において、一般教養を学び、人間性を高め、真の友人を作り、青春を謳歌し、将来の職業の基礎となる知識を修得していただきたいと願っています。

徳島大学は、今や世界のトップレベルの大学としての評価を受け、さらにそのレベルを向上させてついであります。たとえば、平成15年には文部科学省の「21世紀COE(Center of Excellence)：卓越した研究教育拠点」プログラムに2つの拠点が選ばれました。また大学教育改革支援事業には平成15年度以降毎年採択され、特に平成18年度には6題採択という87国立大学中2位の成績を得ています。このように研究面、教育面ともに我が国ではモデル大学としての地歩を固めています。

\*注 21世紀COEプログラム

「我が国の大学に世界最高水準の研究拠点を学問分野ごとに形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的として、平成14年度から文部科学省が実施している研究拠点形成費補助金事業」

## 法人化と徳島大学

徳島大学は昭和24年に設立された国立大学ですが、平成16年4月から国立大学法人として再出発しました。法人化すると、6年間の中期目標、中期計画を立て、それに従って役員会や教育研究評議会、経営協議会を中心とした自主的な運営を行い、毎年国立大学法人評価委員会により評価を受け、年に1度は中期目標の達成度について大学評価・学位授与機構により評価されます。

大学を運営する予算の約半分を占める文部科学省からの運営費交付金は、平成17年度から毎年少しずつ削減が決まっており、自己収入の増加と支出の抑制が要求されます。しかし学生教育に対しては最大限の配慮を行い影響の出ないよう努めます。

## 徳島大学の目指すもの

徳島大学は中期目標・中期計画を実施中の6年間に行うべき基本構想として次の3本の柱を立てました。

### 1 特色ある教育システムの構築

まず、進取の気風、人間性そして専門能力を養う教育プログラムの策定です。学生の個性に合わせた能力開発の視点に立ち、進学と就職を考慮した専門基礎教育の充実を図ります。また高度専門職の養成と研究者の輩出を目指して大学院教育の改革を行います。そのためには不断のファカルティ・ディベロップメント(教育者の資質向上)を推進し、学生とともに教育の改革を目指します。

### 2 独創的で世界トップレベルの研究拠点の構築

蔵本地区では医学、歯学、薬学および栄養学研究科の統合大学院「ヘルスバイオサイエンス研究部」を平成16年4月に設置し、組織横断的に研究や教育を行うことが可能になりました。疾患酵素学研究センターやゲノム機能研究センターとも共同して独創的な研究が展開されることが期待されます。平成15年7月には21世紀COEプログラムが2拠点採択されており、本学は世界のトップレベルの研究拠点であることが実証されています。

一方、常三島地区でも平成18年4月に大学院工学研究科を部局化した「ソシオテクノサイエンス研究部」が設置され、更なる研究、教育の発展が期待されます。

### 3 密接な産学官の連携と幅広い地域貢献

本学では産学官の連携に取り組むため「研究連携推進機構」を立ち上げ、また幅広い地域貢献に資するために「社会連携推進機構」を設置し、活動を行っています。前者は知的財産の保護と産業界への技術移転を推進し、後者は地域社会の総合支援を行っています。このように社会貢献の面で、徳島大学は開かれた大学として地域とともに歩んでいます。

諸君はこのような大学で学ぶことを誇りに思い、健康に留意し、有意義な学生生活を送られ、幅広い人間性を高め、夢と希望に向けてチャレンジされるようお願いいたします。





学生相談室  
専任カウンセラー  
的場 みぎわ

悩むことは  
成長への二歩



学生生活がスタートしました。学生時代、楽しいこと、うれしいこともあれば、苦しいこと、悲しいこと、いろいろなあります。様々な悩みにも出会ってしまふ。

学業面のこと、サークルのこと、友達関係のこと、自分の性格、恋愛問題、研究上のこと、進路や就職のこと、家族のことなど、悩みをあげたらきりがありません。

ところで、私たちは悩むことを悪いことのように考えがちですが、本当にそうでしょうか。もちろん程度の問題があると思いますが、悩むことは決してマイナスとはかりはいえません。悩むことを通じて、私たちは多くのことを得たり学んだりします。悩むことは、成長への一歩ともいえます。

学生のための  
「何でも相談室」

そんな悩みを一人で抱えず、相談する場所が学生相談室です。学生相談室は「何でも相談室」です。学生生活を

送る上で出会うすべてのことが相談できます。修学・履修のこと、進路・就職について、人間関係、家族、自分の性格や行動、その他、セクハラやアカハラといったキャンパス・ハラスメント、あるいは、悪質商法やネットトラブルといった法律に関する事など、相談内容に応じて、それぞれ専門の相談員やカウンセラーを紹介します。また、必要に応じて学内部署や学外機関を紹介いたします。秘密は厳守されます。

学生の皆さん、困ったら、悩んだら、まずは相談室を訪ね、問題や悩みを話してください。皆さんの悩みが少しでも軽くなるよう、学生相談室が応援します。

**教職員や保護者とも協力**

学生の相談に乗り、対応に悩まれている教職員の皆さん、学生相談室にご相談ください。学生相談室は、「教職員からも理解され、支持されながら一緒に学生を支援するサポートセンター」です。

その他、保護者からの相談も受けています。「子どもが大学に行かない。どうしたらいいだろうか。」といったような電話やメールでの相談にも対応しています。



常三島  
TEL: 088-656-7637  
●月水木金 10:30~17:30  
●火: 10:30~16:30

蔵本地区分室  
TEL: 088-633-9298  
●火: 13:30~17:30

E-mail: gkseisod@jim.tokushima-u.ac.jp

学生相談室は「保護者とも理解し、信頼しあいながら、協力しあう窓口」の役割も担っています。

「話すこと」で  
心が軽くなるよ

「話を聞いてもらって本当に良かった」「話すことで気持ちが軽くなった」と言う学生さんの言葉を耳にした時、学生相談室のカウンセラーとして話を聞くことができ、本当に良かったと心から感じます。学生相談室のスタッフ一同、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう応援します。どうぞ気軽に来室してください。

徳島さんなところ

春です  
徳島へ



ドイツ館と二つの橋

総合科学部人間社会学科  
人文科学講座  
井戸 慶治

しました。彼らの新聞は、周囲の景観に合った橋、素人の仕事にしては大きなものと呼んでいます。神社をはさんで反対側には「バルトの楽園」のロケ村があり、当時の収容所の様子を偲ぶことができます。

鳴門市大麻町には一番礼所霊山寺のほか、第次大戦時の板東俘虜収容所を記念するドイツ館があります。館内には、第九を演奏する楽団の自動人形や各種資料が展示されています。南側の道の駅は、実際の収容所兵舎を移築したものです。収容所は数百メートル南のドイツ村公園にあります。収容所には今、収容所で死んだ兵士の記念碑とわずかな遺構しかありません。ドイツ館の東の大麻比古神社裏の杜には、捕虜たちが造ったドイツ橋とめがね橋があります。ドイツ橋は75m、195tの石を用い、セメントなしで積み上げたもの、めがね橋は池にかかる小橋で、庭園用に造ったものです。彼らは自然の中での壮快な労働と創造の喜びを求めて、ほとんど自発的にこれを建設



ドイツ館(手前はペーター・ヴェン像)



めがね橋



ドイツ橋

吉野川満喫の  
ラフティング  
医学部保健学科基礎看護学講座  
川西 千恵美



ラフティング  
West West [提供http://www.west-west.com/]  
写真提供/高木長門

ぼけ(ぼけ)は写真のような激流のところもあり、日本最高のラフティングスポットといわれています。ラフティングは、大きなゴムボートに乗って、6~8人くらいが力を合わせて激流を下るスポーツです。ライフジャケットをつけて、プロのガイドさんと共に挑戦しますが、わくわくドキドキのスリルが味わえます。徳島が誇る全国区の観光地なのですが、徳島にこんな所があったなんてと徳島県人も驚くことでしょう。川に落ちても楽しい夏がベストシーズンですが、5月には新緑がとても美しく、鯉のぼりがたくさんおおよぐ大歩危・小歩危もおすすめです。



5月の大歩危

リアス式海岸と  
マリンスポーツ

大学院ヘルスバイオサイエンス  
研究部泌尿器科学分野  
金山 博臣



水床(みとこ)湾

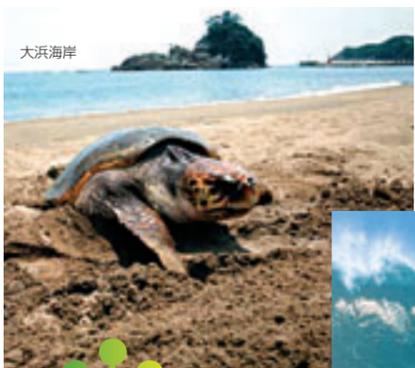
県外から来られた方が良く言われるのが「空が青い」「海がきれい」「自然がいっぱい」等々です。自然だけでなく、有名な「阿波踊り」や「阿波人形浄瑠璃」「阿波藍」など、日本・世界に誇る伝統文化もたくさんあります。「」ではほんの少ししか紹介できませんが、授業や研究のお休みに、ぜひあちうらにいらして出かけて阿波・徳島を満喫してください。

徳島県南はリアス式海岸と砂浜の連続する風光明媚な景観に感じます。海部郡美波町(旧由岐町、日和佐町)、牟岐町、海陽町(旧海南町、海部町、穴喰町)と非常に美しい海岸線が続いています。海水浴場は、田井の浜・内妻・大砂海水浴場、高知側の白浜海水浴場があり、その他にも美しい砂浜がいたるところにあります。日和佐の大浜海岸は海亀の産卵で有名です。また、牟岐大島や穴喰の竹が島など、さんご礁と熱帯魚が観察できるダイビングスポットもあります。竹が島では海中観光船ブルーマリヤ、シーカヤックの体験もできます。徳島県南から高知県にかけて

は、世界的に有名なサーフスポットであるカイフ(海部)ポイントや内妻海岸、穴喰海岸、生見海岸もあり、サーフィンの世界大会が開催されたこともあります。写真のようにハワイと勘違いするほどです。サーフショップもあり、プロのサーファーもいます。さらに、磯釣りや投げ釣りのポイントも無数にあります。徳島県南は、まさにマリンスポーツのメッカと言えます。気候も温暖で夏だけでなく一年中楽しめます。



リバーステーション  
West West (県西部の観光地の拠点)の夜景



大浜海岸



世界のカイフ(海部)ポイント

大学生活において、教職員や地域の人たちのあたたかい応援や支援は、親元を離れて、あるいは自立してがんばる学生にとって親のような存在です。やがて社会に巣立ったときに、その大きな存在に気がつくことでしょう。今年も、毎日の食生活でお世話になっているお店と学食の方から、今昔の学生気質と、励ましの言葉をいただきました。

中華料理 珉来（みんらい）「常三島」  
浅野 サトエさん

今も昔もマナーが良い徳大生

昭和45年（1970）から常三島  
地区の東側で営業されている珉来



●営業時間:11:00~15:00/17:00~20:00 ●休業日:土日祝日

さんは、学生だけでなく先生や職員も出入りし、二日一回の常連も多く、学生にとって値段も量も味も満点の中華料理店です。

「小さな店だし場所が少しわかりにくいのですが、先生が学生さんを連れてきてくださったり、先輩からの口コシなどでたくさん来ていただいています。ただ夏休みや冬休みなどはガラガラですが」（笑）  
と言つ浅野さん。若い人向けに少し濃いめの味付けや、安くてボリュームのある定食で学生たちの食生活を応援してくれています。

「栄養不足にならないように、野菜

珉来（みんらい）

も多めに入れています。もうけは少ないですけど」（笑）

開店以来のパートの店員さんも、「学生さんが風邪をひいていたりしたら、あつさりしたものをすすめてくれます。顔見知りになると店の外で声をかけてくれることもあり、うれいですね」



と、アットホームな雰囲気伝わってきます。また卒業後やクラブ活動から寄せ書きが送られたり、入学直後に両親とともに来店して、子どもをよろしくお願ひしますと頼まれることもあるそうです。

「学生さんは、ファッションやスタイルは変わりましたが、今も昔も徳大生のマナーの良さには感心します。こういったところで商売ができて、あわせです」

と、過分なお言葉也。

「健康に気をつけて、しっかり勉強して卒業してほしいです。そして社会に出てがんばってください」  
とのメッセージをいただきました。

# 生大世質 当徳気

よひんそ徳大へ  
春です

にこにこ食堂「蔵本」  
やまもと けいじ  
山本 啓治 さん

徳大とともに半世紀



ここにこ食堂が新町橋のたもとで開店したのは戦後まもなくの昭和25（1950）年。同33年に蔵本商店街に移転して、さらに10年ほどして現在の場所へ。

「物心ついたころには医学部があったと記憶しています。当時は木造の兵舎をそのまま利用していました。中学生のころから店の手伝いをしていたのですが、出前に行く、床が

ぎしぎし鳴いたのを覚えてます」  
そのころはまだガスではなく石炭を使って調理していたそうです。

25才でお父さんの後を継いでもう30年。山本さんの見てきた徳大生は時代とともにどのように変わってきたのでしょうか。

「昔は学生は制服が当たり前でしたが、今は自由な格好でしょ。若い先生などは学生と区別がつかないことがあります。名刺をもらって、あつ先生だったのか（笑）と。制服を着ていると見た目は同じようでしたが、個性の強い人が多かったですね。学生も先生もユニークでしたよ。でもその年その年の個性もあります。何となく空気が違うのがわかりますね」

食事の取り方や、メニューにも変化が見られるようです。

「昔は三食きつり食へていました

## 学生食堂

常三島第二食堂・蔵本会館食堂

（財）学校福祉協会 次長

内藤 雅昭 さん

朝食をしっかりとって元気に健康に



蔵本会館食堂

学生にとっていわゆる「学食」は、近い安い・早い上に、うまくてボリューム感があるということ、もっとも身近な食事の場です。セルフサービスで、和洋中の豊富なメニューの中から好きなものを好きな量だけとれるということも魅力です。「三〇〇〜五〇〇円くらいでお腹がいっぱいになるように努力・工夫しています」

と、内藤次長。しかし昔と比べると学生の食事の取り方に変化があり、食べる量も減っているそうです。

「昔は大盛りが二割、中が七割、小割べらりの割合でしたが、今は小が半数を占めています。若いから揚げ物などを多く取りがちですが、野菜もしっかり食べてほしいですね」

野菜を少しでも多く取れるようにと、サラダバーではグラム二円の量り売りもしています。また総菜は赤・青・黄色のお皿の色で分け、栄養の内容がわかるように工夫されています。

朝食もきちんと食べてほしいと、モーニングカレーや定食をなんと100円也。

「大学時代は貴重なときですから、勉強だけでなくクラブ活動やいろんなことに挑戦して、大切に過ごしてください。そしてお腹がすいたら食べに来てくださいね」

\*学生食堂は徳島大学生協の常三島第1食堂（総合科学部側）と今回紹介した学校福祉協会の第一食堂（工学部側）、蔵本会館食堂があります。

## にこに食堂

営業時間 11:30~14:00/16:30~20:30  
休業日 日祝日

